

小松照幸教授のご退職にあたって

経済学部長 大 石 邦 弘

小松照幸先生は、2015年3月末をもって定年退職されました。先生の在職期間は27年でした。先生は本学経済学部の第2期生でもあります。名古屋学院大学との関わりは、学生生活も含めれば優に30年を超すことになります。ここに、本学と経済学部を代表して心より感謝の意を表したいと思います。在室時には研究室の扉を全開にし、いつでも学生や同僚を研究室に受け入れようとされていた姿を、今でも懐かしく思い出します。

小松先生は、1945年3月に高知県高知市でお生まれになりました。1965年4月本学経済学部に入學し、在學中にアメリカ留学も経験されます。学部ご卒業後に再び渡米され、アラスカ州立大学大学院の修士課程に在籍されます。帰国後は、日米教育委員会のシニア・カウンセラーとして日本から留学する人たちの様々なサポート活動を行いながら、上智大学大学院で比較文化研究の研鑽を積まれました。本学には、1988年に留学生別科の専任講師として就任され、1999年からは経済学部へ籍を移され、2014年には教授へと昇進されました。この間、多文化関係学会の立ち上げなど、学外活動も積極的に行われました。

経済学部生のゼミ指導にとどまらず小松先生は、NGU教養スタンダード科目「比較文化入門」や「現代日本文化論」などを担当されました。国際化が進展する中で、他者を理解すること、異なるものを理解することの重要性を指摘し、それらの理解は異なるものへの拒否反応や偏見からわたしたちを自由にさせるのだと、全学部生に伝えておられたのだと思います。他方、留学生別科の授業科目「日本の社会」では、日本にきたばかりの留学生たちへ、日本文化の紹介につとめられました。先生の授業は、他者との違いを理解させるだけではなく、結局のところ自分自身の内にある異なるものを気づかせることにあったのでしょうか。そういう意味では、自分探しのための、自分を理解するための科目であったと思います。また、本学教育の一つの大きな柱である国際交流については、小松先生の貢献を抜きにして語ることはできません。留学生受け入れだけではなく留学先の開拓により、異文化体験のチャンスが多くの学生に与えられてきました。

もう一つ学部長としては、教授会での小松先生の姿勢を忘れるわけにはいきません。ある議案について議論が進み、そろそろ採決にうつろうと思いはじめた時、先生が発言を求められます。その発言は、私たちが当然なこととして議論せずにきた根源的な部分での言及が多かったように思います。今、先生のおられない教授会を運営しながら、そもそも論から議論しようとする姿勢を持った教員のいないことに寂しさを感じています。

定年前の懇親会の席で小松先生は、これからお住まいになられる土地のこと、家のことを楽しそうに語っておられました。先生の人生が、健康とともに、実り多いものでありますように心よりお祈り申し上げます。